

幼保連携型認定こども園「大和こども園」

令和5年度事業計画

園長：池田 巧 副園長：桶田 かおる

★中長期計画(5ヶ年計画)

●教育保育目標

しっかりした子

- ・人に思いやりを一明るさ・やさしさ(なでしこ)
- ・きびしさを自分に一がまん強さ・やる気(松)

●施設整備計画

年度	R1	R2	R3	R4	R5
計画		空調等 改修工事完了			

<備考>

R6年度…周年記念事業、給食室改修工事

●人事計画目標

- ・若手の育成を念頭に OJT 及び県内外への視察研修を実施し実践力を高める。
- ・園内研修及びカンファレンスを生かした資質向上を図る。
- ・職員育成・評価シートと連動した面談から、キャリアパスフレームに基づいた意識の向上を図る。
- ・キャリアアップ研修の計画的な受講を勧め、一人一人へのキャリアの構築を図る。

●業務の改善

- ・ノンコンタクトタイムの確保
- ・効率化のための ICT 化の推進

●休日保育

- ・令和3年度より実施。

●収支計画目標

- ・適切な予算の執行に努め、収支の安定を図る。

★単年度事業計画

●教育保育計画

- ・教育保育課程の重点を子どもの本来の特性を生かす観点から見直し、子どもが遊び始める姿を目指す。
- ・教育保育課程の重点から月目標を焦点化することで、生活全体を通して様々な価値ある体験が積み重なるよう計画的に実践する。
- ・年間の教育・保育計画を基に、5つの領域の内容が総合的に含まれるよう配慮し、知識・技能の基礎、思考力・判断力・表現力の基礎、学びに向かう力や人間性といった資質・能力を育む。
- ・小学校との円滑な接続となるよう子どもの様子を「10の姿」を通し、意見交流を図る。
- ・毎日の実践記録の継続から、子どもの育ちを確認し、意図的・計画的な保育の展開の定着を図る。
- ・運動会や生活発表会等の行事への取り組みの中で「主体的・対話的で深い学び」のプロセスを重視することで、日々の保育の充実を図る。

●食育計画

- ・保育者と連携・協力し、健康な生活の基本として食を営む力を育て、食への関心や態度を養い、望ましい食習慣の育成を図る。
- ・子どもが生活や遊びの中で、意欲を持って食に関わる体験を積み重ねられるよう全職員が協力し、食育活動の創意工夫を図る。

●保健衛生計画

- ・子ども一人一人の成長発達を把握し、身体的・精神的変化を見逃さず、対応を行う。
- ・保育室内の環境衛生を整え、感染症を予防する。

●外国籍児童対策

- ・ブラジル国籍児への対応としてポルトガル語の通訳翻訳担当専任職員を配置し、異文化理解のもとに支援を行う。

●地域との連携

- ・豊かな生活体験を得られるよう地域の資源を活用する。
- ・地域の関係機関との連携やHPによる啓発を通して子育て支援を行う。
- ・災害時の協力や交流活動への参加を図る。

●加算事業実施予定

加算事業状況		加算事業
加算部分①	実施事業	処遇改善等Ⅰ、副園長・教頭配置、学級編成調整、3歳児配置改善、満3歳児対応加配(未定)、チーム保育加算、通園送迎、給食実施、講師配置
	未実施	外部監査費
加算部分②	実施事業	療育支援、事務職員配置、処遇改善等Ⅱ/Ⅲ、療育支援、冷暖房費、栄養管理
	未実施	除雪費、降灰除去費
	3月事業報告	施設関係者評価、高齢者活躍促進、施設機能強化推進、小学校接続

●特別保育事業等実施予定

特別保育事業	補助金の有無	実施状況
延長保育促進事業	適用あり	実施
休日保育	適用あり	R3年度より実施
病児保育事業(体調不良児)	適用あり	1名配置
地域子育て支援拠点事業	小松市廃止	分園実施
一時預かり事業	マイ保育園	状況により実施
保育体制強化事業	適用あり	職員配置
保育補助者雇上強化事業	適用あり	職員配置
外国児童支援事業	適用あり	実施

●小松市単独事業等実施予定

元気っ子こまつ	50,000円/年	実施予定
保育環境支援(障害者雇用枠)	50,000円/月	該当なし
地域公益事業/カブッキーランド協賛支出	289,000円/年	前年実績
住居支援事業		利用予定

★定員と入園状況(下段は4月入園予定人数)

定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小計	合計
1号				5	5	5	15	225
				7	5	3	15	
2号				35	35	35	105	▲15
				31	37	34	102	
3号	30	35	40				105	(81.3%)
	4	30	32				66	

幼保連携型認定こども園「松陽こども園」

令和5年度事業計画

園長：森 都 教頭：大西 千鶴

★中長期計画(5ヶ年計画)

●教育保育目標

「心身ともに健やかな子ども」

げんきなからだ・やさしいところ・がんばるちから

●施設整備計画

年度	R1	R2	R3	R4	R5
計画	駐車場夜間照明設置			園庭改修工事 (企画、プランニング)	・園庭改修工事 ・防犯対策強化 (フェンス・防犯カメラ設置)

●人事計画目標

- ・職員研修規定の積極的運用により資質向上を計る
- ・キャリアアップ研修等の計画的受講により職員一人一人のキャリアの構築を目指す。
- ・園内研修を通して同僚性、専門性を高める。
- ・優秀な人材確保

●収支計画目標

- ・定員を守り加算などによる収支の安定を図る。

★単年度事業計画

●教育保育計画

- ・子どもが安心感と信頼感をもって活動に取り組めるよう、子ども一人一人に思いを寄せ「心の土台」を育む。
- ・子どもが心動かされているものをしっかりと捉えてより良い環境をつくり、子どもが自発的・主体的に遊ぶ中で「生きる力の基礎」を育む。
- ・R6年度の研究発表に向け、大学教授の指導の下研究を進める。

●食育計画

- ・食を通して、子どもたちが人とのつながりを大切にしたり、食材に関心を持ったりし、感謝の気持ちや命を大切に育てる。
- ・さまざまな食育活動の中で食べることを楽しみ、食と生命のかかわりや自然の恵み、調理する人へ感謝の気持ちや命を大切に育てる。

●保健衛生計画

- ・子どもたちが心身ともに健康で安全に過ごせるよう保健管理(心身面・環境面)を適切に実施していく。
- ・子どもたちが自分の体や健康に関心を持ち、病気の予防など必要な活動を推進する。
- ・園内の環境衛生を整え、感染症の予防をする。

●子育て支援計画

- ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育て等に関する相談・援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育て及び子育て支援に関する講習等の実施により地域の子育てを支援
- ・交流の場に出ることができない親子への支援

●地域との連携

- ・災害時における地元町内との協力体制の強化を図る。
- ・地域の方々(畑の先生他)との交流活動をさらに充実させる。
- ・地域行事に積極的に参加し、園行事にも参加していただく。
- ・情報誌を作成し、地域に開かれた園として情報発信を積極的に行う。

●小学校との接続・連携

- ・小学校との交流会、授業見学などを通して連携を図り、更なる関係性を構築する。

●加算事業実施予定

加算事業状況		加算事業
加算部分①	実施事業	処遇改善等Ⅰ、副園長・教頭配置、学級編成調整、3歳児配置改善、満3歳児対応加配(未定)、チーム保育加算、通園送迎、給食実施、講師配置
	未実施	外部監査費
加算部分②	実施事業	療育支援、事務職員配置、処遇改善等Ⅱ/Ⅲ、療育支援、冷暖房費、栄養管理
	未実施	除雪費、降灰除去費
	3月事業報告	施設関係者評価、高齢者活躍促進、施設機能強化推進、小学校接続

●特別保育事業等実施予定

特別保育事業	補助金の有無	実施状況
延長保育促進事業	適用あり	実施
病児保育事業(体調不良児)	適用あり	1名配置
地域子育て支援拠点事業	小松市廃止	実施
一時預かり事業	マイ保育園	実施
保育体制強化事業	適用あり	実施未定
保育補助者雇上強化事業	適用あり	実施未定
外国児童支援事業	適用あり	実施

●小松市単独事業等実施予定

元気っ子こまつ	50,000円/年	実施予定
保育環境支援(障害者雇用枠)	50,000円/月	実施予定
地域公益事業/カブッキーランド協賛支出	187,000円/年	実施予定
住居支援事業		利用予定

★定員と入園状況(下段は4月入園予定人数)

定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小計	合計
1号				4	6	5	15	155
				4	6	5	15	
2号				26	16	23	65	139
				27	16	23	66	
3号	20	26	29				75	(89.7%) 対前年 ▲7
	2	27	29				58	

幼保連携型認定こども園「月津こども園」

令和5年度事業計画

園長：荒井 早苗 / 教頭：向 春代

★中長期計画(5ヶ年計画)

●教育保育目標

心身ともに健康な子ども 自然を大切にする子ども

自分で考えて行動できる子ども

●施設整備計画

年度	R1	R2	R3	R4	R5
計画				・大プール日よけ設置 ・チャレンジキッズの撤去	

<備考>

R6年度…太陽光発電装置設置工事

子どもの安全と環境を整える。(補助事業助成金を有効活用)

●人事計画目標

- ・OJTによる若手の育成
- ・キャリアアップ研修等の計画的受講
- ・園内研修、公開保育、カンファレンスを生かした資質向上

●収支計画目標

- ・地域の実情に合わせ定員減とする。
- ・適切な予算の執行に努め、収支の安定を図る。

★単年度事業計画

●教育保育計画

- ・小学校以降の発達を見通しながら教育及び保育において「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」遊びを通して一体的に育んでいく。
- ・子ども一人一人の主体性を尊重し、受容的で応答的な関わりを行う保育を心がけ、継続していく。
- ・広い園庭、地域の自然などを活用し、多様な木々、草花・生き物など子どもたちが気軽に自然とふれあい、五感で感じる環境づくりを大切にして子どもが夢中になって遊べる環境を目指していく。

●食育計画

- ・様々な職の経験を通して食の大切さや楽しさをしおり、豊かな心を育む。
- ・食事のマナーを身につける。
- ・お味見当番を経験し、食のプロセスに関わり、五感を引き出し、興味を持つ。また、食を味わい、表現し、友達や家族に伝えることで感覚が豊かになっていく。

●保健衛生計画

- ・健康状態や発育及び発達の状態の把握、園児一人一人の健康の保持及び増進に努める。
- ・疾病等（体調不良児・感染症対策）への対応。特に新型コロナウイルス感染症に関しては世の中の動向も考慮しながら徹底した対策を継続していく。家庭への協力等も随時発信していく。
- ・子どもたちに向けた健康支援を行うことにより、自分の体や健康に興味・関心を持てるようにする。

●子育て支援計画

- ・子どもの利益を最優先するとともに、保護者の自己決定を尊重し、子どもの育ちを家庭と連携して支援していく。
- ・地域の子育て家庭への支援。情報紙の配布。

●地域との連携

- ・災害時における月津校下との協力体制を図る。結ネットの効果的利用。月津校下の防災士連絡会に参加し情報共有。防災士による講話（園児、職員対象）
- ・地域の方との交流活動の充実。（リトミック。和太鼓）野菜等の栽培の手伝い
- ・地域行事に積極的に参加し、園行事にも参加していただく。
- ・情報誌を作成し、情報発信を積極的に行っていく。（結ネットでの発信）

●小学校との接続・連携

- ・小学校とは交流会、授業見学などを通して連携を図り、更なる関係性をコロナ禍の動向を見ながら構築していく。
- ・校長との情報交換を密にする。

●加算事業実施予定

加算事業状況		加算事業
加算部分①	実施事業	処遇改善等Ⅰ、副園長・教頭配置、学級編成調整、3歳児配置改善、満3歳児対応加配(未定)、チーム保育加算、通園送迎、給食実施、講師配置
	未実施	外部監査費
加算部分②	実施事業	療育支援、事務職員配置、処遇改善等Ⅱ/Ⅲ、療育支援、冷暖房費、栄養管理
	未実施	除雪費、降灰除去費
	3月事業報告	施設関係者評価、高齢者活躍促進、施設機能強化推進、小学校接続

●特別保育事業等実施予定

特別保育事業	補助金の有無	実施状況
延長保育促進事業	適用あり	実施
病児保育事業(体調不良児)	適用あり	1名配置
地域子育て支援拠点事業	小松市廃止	実施
一時預かり事業	マイ保育園	状況により実施
保育体制強化事業	適用あり	職員配置
保育補助者雇上強化事業	適用あり	職員配置
外国児童支援事業	適用あり	在籍予定

●小松市単独事業等実施予定

元気っ子こまつ	50,000円/年	実施予定
保育環境支援(障害者雇用枠)	50,000円/月	実施予定
地域公益事業/カブッキーランド協賛支出	163,000円/年	実施予定
住居支援事業		利用なし

★定員と入園状況(下段は4月入園予定人数)

定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小計	合計
1号				5	5	5	15	125 対前年
				5	3	7	15	
2号				15	20	20	55	▲10 112 (89.6%)
				17	14	24	55	
3号	15	20	20				55	対前年 ▲1
	3	23	26				42	

幼保連携型認定こども園「蓮代寺こども園」

令和5年度事業計画

園長：堂前 弘美 / 教頭：宮越 洋美

★中長期計画(5ヶ年計画)

●教育保育目標

- 「健康な心と体」
- 「あふれる意欲と好奇心」
- 「豊かな感情と道徳性」

●施設整備計画

年度	R1	R2	R3	R4	R5
計画	基本計画 小型バス導入	実施設計 園舎新築工事 防犯カメラ		赤ちゃん駅 推進事業	農地取得・ 増設工事 (こども農園)

●人事計画目標

- 幼稚園教諭免許取得、保育士資格取得の推進。
- 処遇改善加算Ⅱの効果的運用による人材育成と組織力向上。
- 職員研修規程の積極的運用、キャリアアップ研修の計画的受講等により職員一人一人の資質向上とキャリアの構築。
- OJTの実施による若手職員の育成。

●収支計画目標

- 園児数の確保と職員の適正配置による運営及び加算、補助金の確保。

★単年度事業計画

●教育保育計画

- 子ども一人一人の、周りの大人への信頼感や自分への自己肯定感といった心の土台(安全)を育み、環境を通して考え意欲を持って主体的に活動し、試行錯誤を繰り返す中で(自然)、人との関わりを楽しみながら社会性・人間性を育てていく(積善)子ども主体の活動により、学びに向かう力(意欲・好奇心・協調性・粘り強さなど)を育てる。
- 新型コロナウイルス感染症等の予防に十分配慮した教育・保育の実践により子どもの健やかな学びを保障する。
- 持続可能な社会作りの担い手として、生活や遊びを通した身近な体験や活動(ESD)から、SDGsの目標を目指そうとする意識の芽生えを育む。

●食育計画

- 発達段階に応じた豊かな食の体験を重ねることにより、一人一人の子どもの食を営む力を育み、豊かな心と体を育てる。
- 年齢に応じた食事のマナーを身につける。
- 様々な体験を通して、自然の恵みと食に携わる人への感謝の気持ちを持って食事を味わう。
- 地元で採れた野菜の提供等、地産地消を推進する。

●保健衛生計画

- 子どもたちが心身ともに健康で安全に過ごせるよう保健管理(心身面・環境面)を適切に実施していく。
- 子どもたちが自分の健康に関心を持ち、より健康な生活を送ることができる意欲と実践力を育てる。
- 新型コロナウイルス感染症等の対策を継続し、子どもたちへの指導や積極的な情報発信による家庭への協力の呼びかけ等を行う。

●子育て支援計画

- 保護者との相互理解のもと、子どもの育ちを家庭と連携して支援していくとともに、保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上を支援する。
- 地域の関係機関等と連携及び協働し園体制の構築に努める。
- 子どもと保護者のニーズに応えた多様な事業・活動の展開(体調不良児対応型、預かり保育、障害児保育、保育参加等)
- 地域の子育て支援センターとしての機能を果たす。(子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育て家庭や妊婦の相談と援助、地域の子育て関連情報の提供)

●小学校との連携・接続

- 学校見学、交流会(1年生)、連絡会等により積極的に連携を

図る。

- 小学校教諭の保育見学や「10の姿」を中心とした話し合いにより、幼児教育への関心と理解につなげる。

●地域との連携

- 災害時における地元町内との協力体制の構築。
- 地域の方々との交流活動の充実及び地域文化の継承。(蓮代寺太鼓・がめつき音頭他)
- 情報誌を作成・配布し、園の取り組みを積極的に発信していく。
- 施設や設備を有効活用した地域の高齢者等との交流計画の策定。(コミュニティバスの運行・こども農園の運営管理)

●加算事業実施予定

加算事業状況		加算事業
加算部分①	実施事業	処遇改善等Ⅰ、副園長・教頭配置、学級編成調整、3歳児配置改善、満3歳児対応加配(未定)、チーム保育加算、通園送迎、給食実施、講師配置
	未実施	外部監査費
加算部分②	実施事業	療育支援、事務職員配置、処遇改善等Ⅱ/Ⅲ、療育支援、冷暖房費
	未実施	除雪費、降灰除去費、栄養管理
	3月事業報告	施設関係者評価、高齢者活躍促進、施設機能強化推進、小学校接続、第三者評価受審

●特別保育事業等実施予定

特別保育事業	補助金の有無	実施状況
延長保育促進事業	適用あり	実施
病児保育事業(体調不良児)	適用あり	1名配置
地域子育て支援拠点事業	小松市廃止	実施
一時預かり事業	マイ保育園	状況により実施
保育体制強化事業	適用あり	職員配置
保育補助者雇上強化事業	適用あり	職員配置
外国児童支援事業	適用なし	在籍なし

●小松市単独保育事業等実施予定

元気っ子こまつ	50,000円/年	実施予定
保育環境支援(障害者雇用枠)	50,000円/月	実施なし
地域公益事業/カブツキーランド協賛支出	114,000円/年	前年実績
住居支援事業		利用予定

★定員と入園状況(下段は4月入園予定人数)

定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小計	合計
1号				5	5	5	15	95
				3	4	8	15	
2号				12	13	13	38	86
				12	15	12	39	
3号	10	15	17				42	(90.5%) 対前年 +3
	2	14	16				32	

大和こども園分園「やぎき乳児保育園」

令和5年度事業計画

園長：池田 巧(兼務) / 副園長：出村 裕美

★初期計画(3ケ年計画)

●教育保育目標

- ・心身ともに健やかな子ども
- ・豊かな感性をもった子ども
- ・心やさしく思いやりのある子ども

●施設整備計画

年度	R3	R4	R5
計画	新園舎事業開始		

●人事計画目標

- ・職員研修規程の積極的運用により資質向上を図る。
- ・キャリアアップ研修の計画的受講等により、職員一人一人のキャリアの構築を目指す。
- ・園内研修及びカンファレンスを通して専門性を高める。
- ・幼稚園教諭免許取得、保育士資格取得の推進。

●収支計画目標

- ・保育ニーズを捉え、定員数を29名から20名に変更。
- ・適切な予算の執行に努め、収支の安定を図る。

★単年度事業計画

●保育計画

- ・健康で安全な環境を整えて子どもの様々な欲求を満たし、子ども一人一人が安心して過ごせるようにする。
- ・家庭的な雰囲気の中で一人一人の子どもの温かいふれあいを大切に、心地よく過ごせるようにする。
- ・身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、様々な体験を通して、感じたことや考えたことを表現する力の基礎を培う。
- ・受容的、応答的な関わりの中で愛着関係を形成し、人に対する愛情や信頼感、生きる喜びを育む。

●食育計画

- ・家庭と連携しながら個人差に応じて授乳、離乳を進め、健やかな発育、発達を促す。
- ・安定した生活リズムの中で様々な食品や調理形態に慣れ、食べることの喜びを感じられるようにする。
- ・様々な食育活動を通して食に関心をもち、自ら意欲的に食べようとする力を育てる。
- ・地産地消を心がけ、安心、安全な食を提供する。

●保健衛生計画

- ・園児の健康状態や発育及び発達の状態を把握し、園児一人一人の健康の保持及び増進に努める。
- ・園内の衛生環境を整え、疾病や感染症対策を適切に対応していく。

●子育て支援計画

- ・子どもの利益を最優先するとともに、保護者の自己決定を尊重し、子どもの育ちを家庭と連携して支援していく。
- ・新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、地域の子育て家庭への支援を行っていく。(交流の場の提供、育児相談や情報提供等の援助、離乳食等の栄養相談、子育てに関する育児講座等の実施)

●地域との連携

- ・災害時における地元町内との協力体制の構築。
- ・情報誌を作成し、情報発信を積極的に行っていく。

●加算事業実施予定

加算事業状況		加算事業
加算部分①	実施事業	処遇改善等Ⅰ、副園長・教頭配置、学級編成調整、3歳児配置改善、満3歳児対応加配(未定)、チーム保育加算、通園送迎、給食実施、講師配置
	未実施	外部監査費
加算部分②	実施事業	療育支援、事務職員配置、処遇改善等Ⅱ/Ⅲ、療育支援、冷暖房費
	未実施	除雪費、降灰除去費、栄養管理
	3月事業報告	施設関係者評価、高齢者活躍促進、施設機能強化推進、小学校接続

●小松市単独保育事業等実施予定

特別保育事業	補助金の有無	実施状況
延長保育促進事業	適用あり	実施
病児保育事業(体調不良児)	適用あり	実施
地域子育て支援拠点事業	小松市廃止	実施
一時預かり事業	マイ保育園	状況により実施
保育体制強化事業	適用あり	職員配置
保育補助者雇上強化事業	適用あり	職員配置
外国児童支援事業	適用なし	在籍なし

●小松市単独事業等実施予定

元気っ子こまつ	50,000 円/年	実施予定
保育環境支援(障碍者雇用枠)	50,000 円/月	実施なし
地域公益事業/カブッキーランド協賛支出	35,000 円/年	前年実績
住居支援事業		利用なし

★定員と入園状況(下段は4月入園予定人数)

定員	0歳	1歳	2歳	合計
	6	9	5	20 対前年 ▲9
3号	2	9	5	16 (80%) 対前年 +3

放課後児童クラブ「芦城児童クラブ」

令和5年度事業計画

所長：田中琴乃

★中長期計画(5ヶ年計画)

●保育方針

「子どもたちの自己肯定感を育む」

- ・無条件に愛される体験
- ・褒められる体験
- ・共感される体験
- ・感謝される体験
- ・達成感を得られる体験

●人事計画目標

- ・優秀な人材の確保と育成
- ・キャリアに応じた研修を推進し、支援員の質の向上を目指す

★単年度事業計画

●生活環境を整える

ソーシャルディスタンスを意識し、感染予防対策をしながら、子どもたちが安心して活動できる場となるよう空間や設備、備品等の配置や構成を工夫する。

●児童の自主性、社会性、創造性を育む

発達段階に応じて主体的な遊びや生活が可能になるように支援していく。

- ・学年に応じた行事の企画
- ・遊び仲間づくりへの援助
- ・縦割りのグループを作り上級生のリーダー性を育てる

●コミュニケーション力を高める

一人一人の違いを理解し、豊かに言葉を使って仲間と交わることができるように支援していく。

- ・こどもせんりゅう（表現力）
- ・ふれあいタイム（体を動かしての集団遊び）

●支援員の研鑽、研修

適切な支援を行うために支援員、補助員は資質の向上を目指し、自己研鑽に励み、研修に参加する。

- ・施設内研修の充実、事例検討会の開催
- ・研修会への参加によりスキルを磨く

●保護者との連携

子どもに関する情報を家庭と共有することにより、子育てと仕事等を両立できるよう支援する。

- ・コドモンを活用した、お便りやお知らせの配信、連絡のやり取りやアンケートの実施
- ・必要に応じた面談
- ・ホームページで毎月の児童の様子を知らせる

●学校・関係機関との連携

子どもに関する情報を学校と共有し、気になる子どもについては関係機関に相談し、適切な支援を実施する。

- ・学期ごとに学校との情報交換会を行う
- ・関係機関等による定期訪問

●地域との連携

地域に密着した行事を取り入れる

- ・縦割りグループごとに地域のお店でおやつを購入
- ・学校周辺のゴミ拾いのボランティアに参加する

●事業実施予定(国庫事業)

実施事業	芦城児童クラブ 1	芦城児童クラブ 2
・基礎(額)事業	児童数 45	児童数 45
・開設予定日数	年 291 日	
・長時間開設(平日)	6.5 時間/日 超開所/30 分以上	
・長時間開設(長期休暇)	長期休暇中 8 時間以降開所/11.5 時間開所(+3.5 時間)	
・障がい児受入促進(国・県)	1 名	1 名
・支援員等処遇改善	18 時 30 分以降開所と処遇改善実施	
・障がい児受入強化推進	3 名以上受入なし	2 名以上受入なし
・開所時間延長促進	12 時 30 分～19 時開所	
・キャリアアップ処遇改善	3 名	3 名

●事業実施予定(県単事業)

実施事業	芦城児童クラブ 1	芦城児童クラブ 2
・指導員複数配置促進 (障がい児受入促進)	障がい児 2 名以降 2 名	
・開所時間延長促進	12 時 30 分～19 時開所	

★定員と入所予定状況 (1/20 現在)

学年	定員等	芦城児童クラブ 1	芦城児童クラブ 2
		定員 45 名	定員 45 名
1 年生		20	20
2 年生		22	22
3 年生		15	17
4 年生		5	2
5 年生		0	0
6 年生		0	0
計		62	61

放課後児童クラブ「蓮代寺児童クラブ」

令和5年度事業計画

所長：竹下 沙知

★中長期計画(5ヶ年計画)

●保育方針

「子どもたちの自己肯定感を育む」

- ・無条件に愛される体験
- ・褒められるという体験
- ・共感してもらえる体験
- ・感謝される体験
- ・達成感を得られる体験

●人事計画目標

・経験年数やそれぞれの役割等キャリアに応じた研修を推進し、支援員の質の向上や児童クラブの運営の向上に向けて、人材育成を図る。放課後児童支援員認定資格の取得等

★単年度事業計画

- ・保護者との信頼関係の構築

●生活環境を整える

子どもが安心して過ごせる生活の場として、ふさわしい環境を整え、安全面に配慮しながら、子どもが自ら危険を回避できるように支援していく。

●児童の自主性、社会性、創造性を育む

子どもの発達段階に応じて主体的な遊びや生活が可能となるように、自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等により、子どもの健全育成を図るよう支援する。

- ・子どもたちが主となる行事の計画
- ・季節に応じた行事の計画
- ・遊び仲間づくりへの援助

●コミュニケーション力を高める

子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助する。

- ・読み聞かせ（表現力・読む力・聞く力）

●支援員の研鑽、研修

適切な支援を行うために支援員、補助員は資質の向上をめざし、自己研鑽に励み、研修に参加する。

- ・毎日の打ち合わせによる子どもに関する情報の共有
- ・施設内研修の充実、事例検討会の開催
- ・研修会への参加によりスキルを磨く

●保護者との連携

常に保護者と密接な連携をとり、放課後児童クラブにおける子どもの様子を日常的に保護者に伝え、子どもに関する情報を家庭と共有することにより、保護者が安心して子どもを育て、子育てと仕事等を両立できるよう支援する。

- ・お迎え時の声掛け
- ・お便りの発行
- ・ホームページ、コドモンの活用

●学校・関係機関との連携

子どもの生活の連続性を保障するために、情報交換や情報共有、職員同士の交流等によって子ども理解を深める。

- ・学校と年4回以上の情報交換会を行う
- ・関係機関等による定期訪問

●事業実施予定(国庫事業)

実施事業	蓮代寺児童クラブ
・基礎(額)事業	児童数 25名
・開設予定日数	290日
・長時間開設(平日)	6.5時間/日超開所/30分以上
・長時間開設(長期休暇)	長期休暇中 8時間以降開所/11.5時間開所 (+3.5時間)
・障がい児受入促進(国・県)	1名
・支援員等処遇改善	18時30分以降開所と処遇改善実施
・障がい児受入強化推進	3名以上受入なし
・開所時間延長促進	12時30分～19時開所
・キャリアアップ処遇改善	3名

●事業実施予定(県単事業)

実施事業	蓮代寺児童クラブ
・指導員複数配置促進 (障がい児受入促進)	障がい児 2名以降
	1名
・開所時間延長促進	12時30分～19時開所

★定員と入所予定状況 (1/31現在)

学年	定員等	蓮代寺児童クラブ
		定員 25名
1年生		8
2年生		14
3年生		7
4年生		7
5年生		0
6年生		0
計		36

中高年齢者生涯学習講座「大和ぬくもり大学」

令和5年度事業計画

学長：朝岡 明美 / 館長：広川 保(兼務)

事務員(生活相談員)：布村 由里子

●成り立ち

昭和19年6月に大和善隣館が開設され、小松市における福祉と文化・教育の拠点施設として多彩な活動を展開してきた。また、小松市より「小松市中央老人福祉センター」事業を受託し、大和善隣館において管理運営。中高年齢者の健康、就労等の相談、健康増進や教養の向上などの生活福祉の向上に努めていく。

●大和ぬくもり大学の設置

近隣地域における健康な中高年齢層を対象にその生活の向上と改善をはかるため、「であい・ぬくもり・ささえあい」を目標に利用者の生きがい創出を目指して、「大和ぬくもり大学」を設置している。今年度も教養・文化・体育部門にかかわる16講座3クラブを開設する。(令和5年1月現在)。

★中期計画(5ケ年計画)

●常勤職員1名体制へと変化したことにより、事業の自由性・拡張性は阻害されてきたが、この機会に講座の独立性と講師・受講生の自主性が発揮できる講座へと転換期をはかってきた。

※主催講座の独立、講座→クラブへの変更など

●少子高齢化が進み、就業人口減少が叫ばれる現在、高齢者就業制度が推進され、定年70歳の時代がすぐそこまで迫っている。「大和ぬくもり大学」事業を継続の必要性和、維持できる体制構築を常に検討していく。

●相談コーナーについて

小松市中央老人福祉センター委託事業である中高年齢者の生活福祉相談について、これまで本部機能との共存で社会福祉主事等の配置を実施できたが、単独運営時の相談事業についての質の低下は免れない。昨今の相談件数の減少の中で、当事業の在り方を引き続き検討する。

●コロナウイルス感染予防対策とその後

・今春にコロナウイルスへの政府対応方針が変更になる報道もあるが、感染時の重症化リスクが高い高齢者を対象にした本事業の対応に苦慮する。しかしながら、芦城センターの空室状況とのマッチングを考慮しながら、新事業展開(新講座、新クラブ)や検討していきたい。

●大和ぬくもり大学の講座

開設講座	講師名	開講日
料理	江前 恵子	第1.3(金)午前
社交ダンス	関 武弥	毎週(火・木)午後
茶道	大橋 みどり	第2.4(水)午前
華道	伊藤 精幸	第1.3(水)午後
俳句	有賀 三枝子	第2(木)午後
歴史	山前 圭祐	第4(木)午後
書道	有賀 虹萌	第1.3(水)午前
詩吟	辻 岳絢	毎週(金)午後
歌謡舞踊	千田 もと子	毎週(火)午前
水彩画	曾我 章	第1.3(火)午前
パソコン	出口 美子	第1.3(金)午前・午後
小さな水彩画	曾我 章	第1.3(木)午後
ぬくもりヨガ	中嶋 美雪	第2.4(金)午後
陶芸	寺門 俊郎	第2.4(木)午後
リズムダンス	水高 敦子	毎週(水)(金)午後
加賀水引	水谷 絹代	第2(火)午前
合唱クラブ	朝岡明美・太田雪江 手取屋範子	第1.3(土)午前
囲碁クラブ		毎週(火)午後
歌謡曲クラブ		毎週(水)午後

●ICT化推進

高齢者の携帯電話→スマートフォンへの以降も進んでおり、モバイルメッセージアプリ「LINE」も普及している。講座利用者には「ぬくもり大学ライングループ」への登録で、講座の開催通知ホームページへのアクセス回数も増加し、情報連絡手段として活用されている。

●大学行事としての卒業式再開

大学の格式を維持し、校歌の継承を含め、来賓招待を行いながら全卒業生を出席対象とした「卒業式」を再開したい。

令和6年3月予定

本部事務局

令和5年度事業計画

事務局長：広川 保 代理：和田 博史

★中長期計画(5ヶ年計画)

●法人理念の再確認

「善隣のこころ」

「いつでも どこでも そしてだれにでもわれ等善き隣人たらん」

先人が遺したこの想いを後世に伝えるために、その時代でのこの理念が持つ意味や価値を再考しながら、職員や児童・保護者等利用者に理解してもらえる事業を遂行していく。

●大和善隣館ブランドの浸透と確立

・近年のテーマとして、昨年度に引続きブランドの浸透と確立を1つ大きな軸として考えていきたい。改めてになるが、法人の事業規模が大きくなりながら、大和善隣館のブランドの浸透と確立が出来ていないと痛感している。ブランディングの難しさに頭を悩ませているが、大和善隣館ならではの他にはない、ストロングポイントをアピールすることによって、変革をもたらしていきたい。今後は更に粘り強く法人をPRすることによって、必ず実が結ぶ時が訪れると信じ、引続きブランド力の向上に努める。利用者や求職者等から、教育保育施設とえば、まず最初に『大和善隣館』と選ばれる法人にブランディングしていきたい。

・来年度、法人創立80周年を迎える。令和3年4月1日より「法人名称」及び「法人拠点」も変更し新たな気持ちで船出を迎えたが、この新鮮な想いを常に忘れることなく、先人の功績の上に確かな足跡を残し、大和善隣館として、80周年、90周年、そして100周年と胸を張って迎えるように法人を導いていきたい。

●今後の事業展開

・昨年度より引続き、その他地域（金沢市・野々市市・能美市等）の動向を注視しながら、法人及び職員の地力を蓄えていくことが、これから数年の目標と課題となる。ただし、人材確保と保育の質の確保に目途が立てば、他市に進出の機会を求めていくことも検討していきたい。特に近接の能美市については、具体的民営化計画も進んでいるとの情報もあり、注視していきたい。

旧町	根上		寺井		辰口	
施設名	大釜屋	福岡	湯野	豊美	国造	緑ヶ丘
小学校	浜	福岡	湯野	寺井	和気	辰口中央
定員	135	150	190	70	120	150

・少子化による急速な人口減少と団塊ジュニア世代が高齢者（65歳以上）となることで高齢者人口が最大となる問題「2040年問題」に直面することが想定されている。子ども・若年層が減少するなかでの人材確保や、事業展開についてもこれらの諸問題を念頭に置き検討していかなければならない。地域の人口・世帯数の減少、地域に応じた福祉ニーズの相違等を考慮し、対応していきたい。

●奨学金貸与事業

・福祉人材育成の応援資金として「奨学金貸与規程」制定、「定款」での公益事業認可を経て事業を開始。平成29年取組開始以降6年目を迎える。取扱件数は決して多くはないが、当時利用した学生も今では一社会人として一所懸命に業務に励んでいる。その姿を見ると、本事業に取組んで間違いではなかったと改めて実感している。今後についても奨学金制度の活用を促進すべく、引き続きPR活動を行っていく、特に県内在学生や出身学生への情報提供に注力する。

●職員採用・育成計画について(主に新卒者)

・昨年度法人内にてリクルートチームを立ち上げた。リーダーである主幹保育教諭を筆頭に若手職員を中心にメンバー構成し、主にYouTubeを活用した動画作成を実施した。これから保育業界を目指す学生や子ども園に興味のある方々の何かためになる「きっかけ」や「ヒント」が得られる動画になれば良いと思う。来年度以降もメンバーを変えつつ、チームとして活動していきたい。

・採用計画において、奨学金制度の活用のほか、法人職員からの紹介制度、「リファラル制度」の活用により、“優秀な人材”の採用と育成に注力していきたい。

・キャリアパス規程に基づく、キャリアパスフレームの標準化と職員への周知徹底により、職員一人一人が自身のキャリアを長期的に捉えることにより、これが“事業の質”の向上につながるよう仕組みづくりと研鑽を行う。

●職員育成(主に中堅職員)

・本項目については昨年度も事業計画に掲げていたが、取組が出来なかったため再度計画として取り入れたい。内容としては、将来管理職を志す職員に対し、育成担当者（主に管理職）が具体的な「育成計画」を作成し、育成・養成を行う。もちろん管理職候補者を育てあげることが1番の目的であるが、人材育成も管理職にとっては重要な求められる業務または役割であることを再認識してもらい良い機会と捉え取組を行う。法人全体で職員育成に取組むことによって、職員の層を厚くし、自ら積極的に行動を起こせるような職員育成に注力していきたい。

●法人中期計画の策定（2030年ビジョン）

・「法人中期計画」を今年度より施行する。8年計画と期間は長めではあるが、SDGsの目標達成期限である2030年に併せた期間設定となっている。人口推移を基にその時々に合わせて利用定員の変更や整備事業、民営化事業など現状考えられるであろう、プラン策定となっている。

●SDGs(Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)宣言に対する取組

・当法人では令和3年4月1日にSDGs宣言をした。運営上最も該当するであろう6つのゴール（開発目標）に絞り宣言したわけであるが、宣言だけで満足するわけではなく、達成年限である2030年に向け、あらゆる取組を実践していきたい。宣言以降、電力のECOプランや公用車購入にPHEV車を選択する等、各種取組を実践しているが、細かなところでは節電・節水、会議のペーパーレス化、給食材料の食品ロス削減、送迎時のエンジン停止依頼などに努めている。職員1人1人が意識して心掛けることが重要ではあるが、子どもたちと一緒に学び、楽しみながら実践することが何よりも大切に感じている。家庭においても親子の会話の中で、何かSDGsに触れるきっかけを作れるよう引続き取組んでいきたい。

●BCP(事業継続計画)運用開始

・自然災害等の緊急事態に遭遇した場合に備え、事業継続あるいは早期復旧を可能にするための方法、手段を取り決めておく「事業継続計画」を昨年度策定し、今年度より運用を開始する。昨年度は小松市でも大雨による甚大な被害があり、いざ災害を目の当たりにして、冷静で的確な「判断・行動」を心掛けることの大切さを実感した。そのためには日常における避難訓練等の重要性を再認識し、園児及び職員の安全確保を最優先と捉え、万が一の状況下においても早期に事業を再開できるように努めたい。

●送迎用バス安全装置設置

・今年度から送迎時や園外保育時におけるこどもの置き去りを防止する観点から、安全装置の設置が義務化される。義務化を受け、法人が所有する全ての送迎用バスについて安全装置を設置し、子どもたちの更なる安全確保に万全を期す。